



環境活動レポート2018

 **中道リース株式会社**



中道リース株式会社 環境活動レポート(2018 年度版)

当社は地球も大切なステークホルダーと位置づけ、事業活動を通じ、人と自然が支え合う社会の創造に向けた環境活動に意欲的に取り組んでいます。

経営の理念

『わが社は事業を通じ、社会の発展に貢献する。』

1. 業績を高め、株主の期待に応える。
2. 従業員の生活向上と働きがいある企業づくりをめざす。
3. 取引先との共存共栄をはかり、社会との連帯を深める。

基本方針

わが社は『経営の理念』のもと、緑豊かな地球を次世代に引き継ぐため、リース事業を幹とした金融サービスを通じ、適切な品質提供と環境保全に取り組めます。

この方針は、全役職員への周知徹底とともに、法令及び当社が同意するその他の要求事項の順守を根に適切性維持のため見直し、継続的に改善します。

品質方針

- ◎ 地域営業基盤を強化するとともに顧客サービスの継続的改善をめざします。
 - * 顧客ニーズへの適切な対応
 - * 迅速な顧客対応
- ◎ 営業資産の健全化と与信管理の充実をはかります。

環境方針

- ◎ 天然資源の枯渇防止を目的とし、循環型社会の形成に寄与します。
 - * 省資源・省エネルギー・再資源化の推進
 - * 環境汚染予防の推進

本方針書は、社内外に公表します。

2010年3月2日
中道リース株式会社

代表取締役社長

関寛

中道リースの環境活動を通じたCSRについて

1. 当社が考える環境活動推進・強化の目的

- 社員の責任感の醸成
- 企業価値と企業評価の向上
- 訴訟リスクの軽減
- 取引選別リスクの軽減

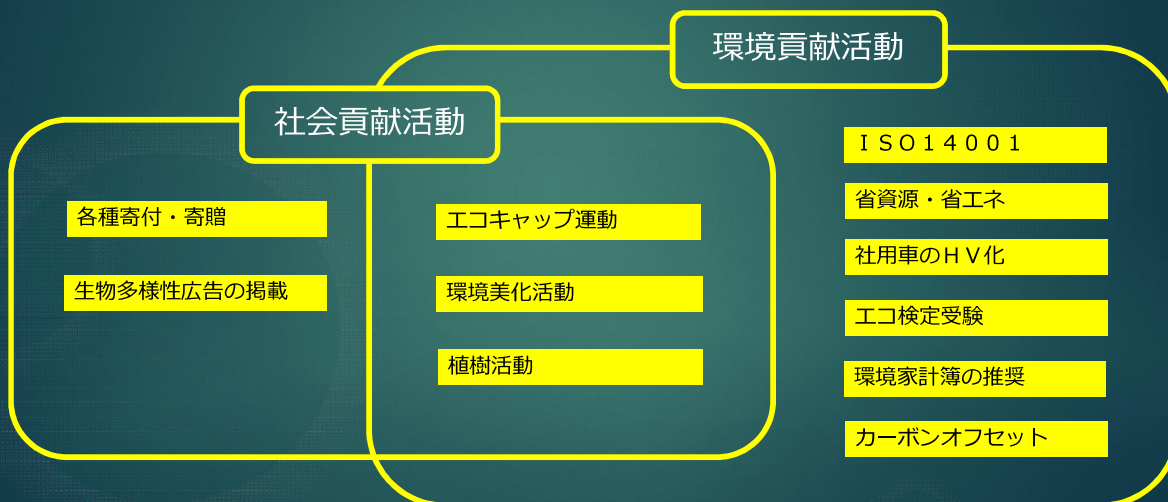
2-1. 当社の取組み

▶ 基本方針

わが社は、緑豊かな地球を次世代に引き継ぐため、リース事業を幹とした金融サービスを通じ、適切な品質提供と環境保全に取り組みます。

この方針は、全役職員への周知徹底とともに、法令及び当社が同意するその他の要求事項の順守を根に適切性維持のため見直し、継続的に改善します。

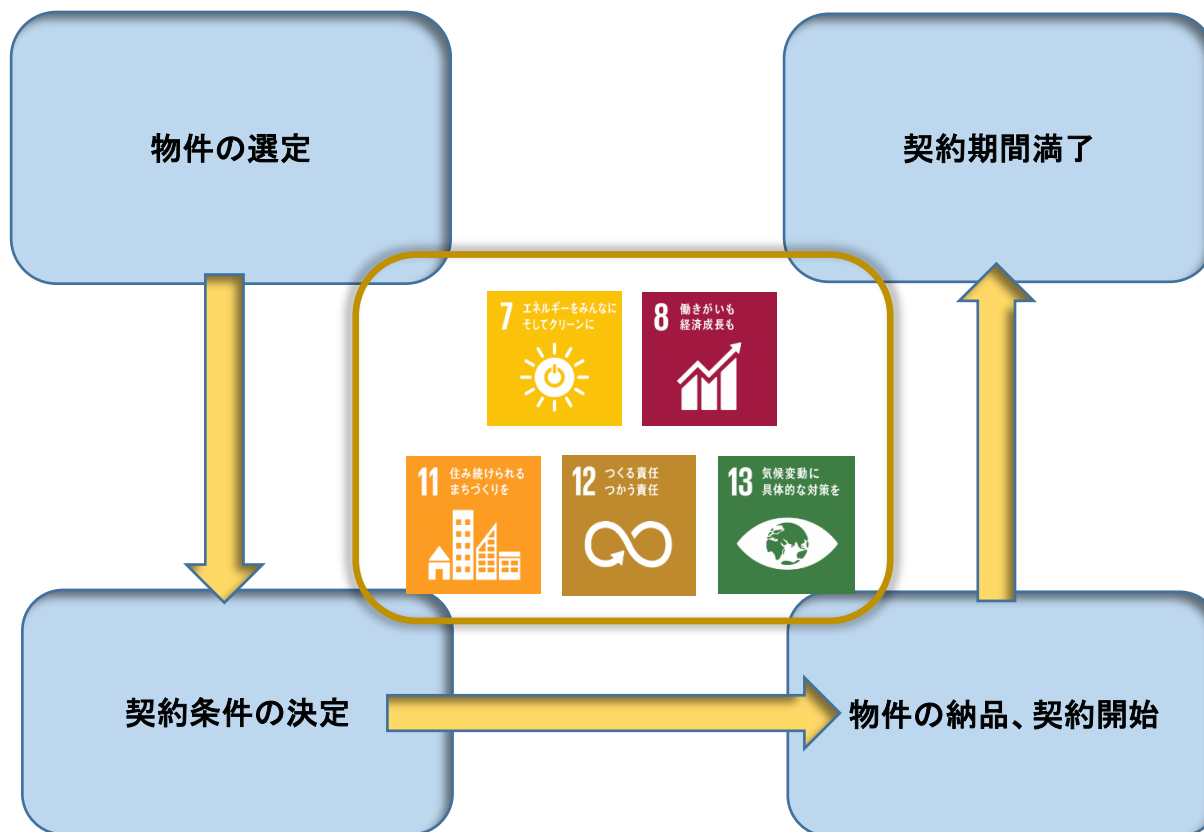
2-2. 社会や地球環境の保全に貢献するための 様々な環境活動を実施しています。



重要課題

中道リースのバリューチェーンにおけるSDGsのマッピング

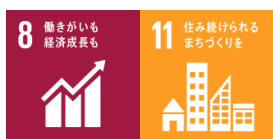
地球環境や社会が抱える課題への対応についてステークホルダーからの期待が高まっており、中道リースの経営に対する影響も近年高まりつつあります。まずは課題を抽出するためSDGsに掲げられている課題と事業との関連を検討し、課題を抽出しております。また、抽出した課題へ取り組むことにより廃棄物処理に関する法律の順守はもちろん、外部委託先の調査、3Rの推進など、リース満了物件の適正処理により環境リスクの低減と資源循環型社会の形成を進めています。



事業とSDGsの関連

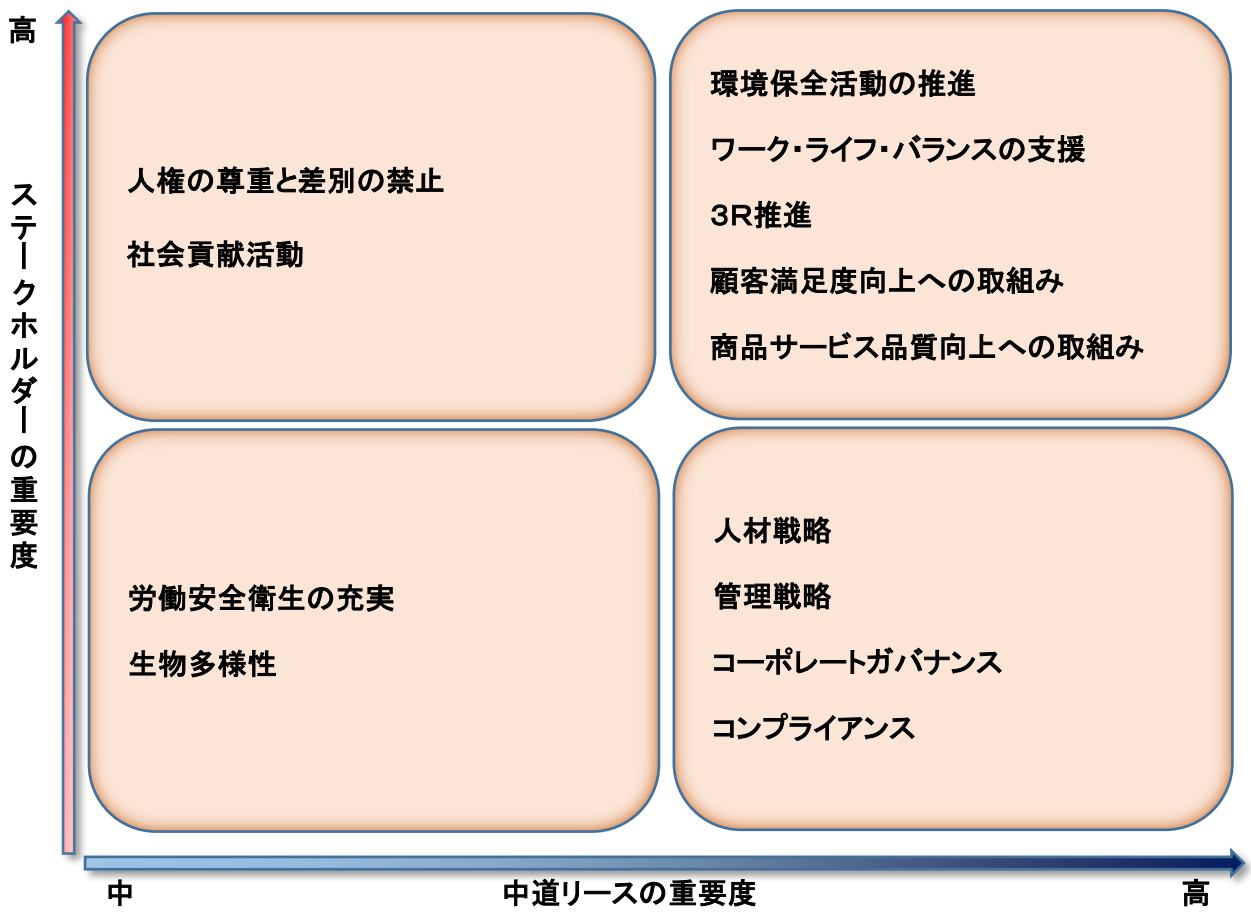


- 物件選定時に環境負荷の低いものへ誘導。
- 基本契約満了時にリユース率を高めるため、再リースを推奨。
- 廃棄処分する場合は、リサイクル率の高い業者を選定。
- 廃棄する物件の運搬も可能な限り近距離で行えるよう調整。
- 提案資料、契約資料等可能な限り紙を使用しないよう取り組み。
- 営業車は低燃費車を導入。また運行記録を元に運行改善教育を実施。
- 社内外での環境負荷の少ない商品の使用推進。



- 社員定着率を高めるためワークライフバランスの向上をめざす。
- 子育てを行う社員の雇用環境を整備するため育児休業を取得した社員の復職率100%を維持。
- きれいな街づくりに貢献するため、ゴミ拾い、植樹活動などさまざまな活動を実施。

マテリアリティ・マトリックスによる重要度分析



重要課題の特定プロセス

- 1 課題の抽出

 - SDGs等の情報から、課題を抽出。
 - 行政機関などのアンケートやミーティングへの参加を通じ課題を把握。
- 2 重要度の分析

 - WEBニュース掲載件数。
 - セミナー、ミーティングの参加により重要性把握。
 - 当社の事業とステークホルダーの重要度の関連性分析。
- 3 妥当性の確認

 - ステークホルダーとの意見交換により妥当性の確認。
 - 社内委員会での検証。
- 4 重要課題の特定

 - 特定したマテリアリティについて目標を決定。
- 5 結果の検証

 - 設定した目標に対する活動評価を行い、HPに自己評価を開示。
 - SDGs等を踏まえて、検証を実施。
 - 上記検証を踏まえ次年度以降のマテリアリティの特定及び目標設定に活用。

環境配慮型物件／環境配慮型サービスの取扱拡大

中道リースでは、資源の枯渇の抑制や地球温暖化防止に取り組んでいるお客様の設備投資(主に環境配慮型輸送用機械)に対し、リース契約や延払売買契約等の商品及びサービスの提供を通じて、環境に配慮した社会の構築に貢献したいと考えています。

自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

【環境配慮型物件(輸送用機械)】

環境配慮型輸送用機械認定基準	2005年(平成17年)以降の排ガス規制に適合された 車両総重量3.5t以下の乗用車および貨物自動車
----------------	---

	2018年度	自己評価	2019年度目標
総取扱実績 (百万円)	1,497	○	1,278

環境配慮型サービス	ESCO事業 省エネルギーサービス 省エネルギー関連補助金活用スキーム
-----------	---

	2018年度	自己評価	2019年度目標
総取扱実績 (百万円)	301	○	400

	2018年度
環境貢献量 (t-CO2)	3,688

【環境保全活動の推進】

	2018年度	自己評価	2019年度目標
グリーン商品比率の向上 (ユーザー向け)(%)	45.50	×	47.05

リース満了品の3R推進

リース期間が満了した物件は再リースを通じリデュース(廃棄物の抑制)に努め、返還された物件はリユース(再利用)を最優先とし、廃棄物となった場合でも適正処理にてリサイクル(再資源化)に取り組んでいます。

自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

【再リース移行率(リデュース)】

	2018年度	自己評価	2019年度目標
再リース移行率(%)	62.97	×	64.20

【リース満了物件リユース率】

リユース(売却件数)/リース満了件数

	2018年度	自己評価	2019年度目標
リユース率(%)	84.29	×	85.30

【廃棄物件リサイクル率】

リサイクル(kg)/廃棄総数量(kg)

	2018年度	自己評価	2019年度目標
リサイクル率(%)	96.00	○	96.70

【処理委託会社への訪問現地調査】

リース期間が満了し、止む無く廃棄となった物件の処分については、産業廃棄物処理委託業者の現地調査を実施、遵法制・リサイクル率等、多面的に評価し選定・委託しています。



エネルギーサービス事業



【ESCO事業とは】

Energy Service Company の略語です。省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、お客様の利益と地球環境の保全に貢献するビジネスで、省エネルギー効果の保証等によりお客様の省エネルギー効果(メリット)の一部を報酬として受取る仕組みです。

【ESCOのイメージ】



お客様は、省エネルギー効果によって得られた経費削減分よりESCO事業者の経費を支払う為、新たな経費負担をする必要はありません。事業終了後は、全てお客様の利益となります。

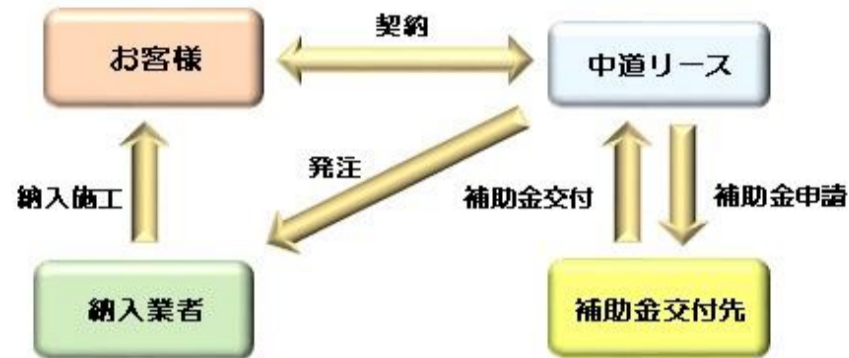
【省エネルギーサービスとは】

ESCOスキームと同様、省エネルギー効果によって得られた経費削減分により設備資金や経費を支払う為、新たな経費負担はありませんが、省エネルギー効果の保証は行いません。

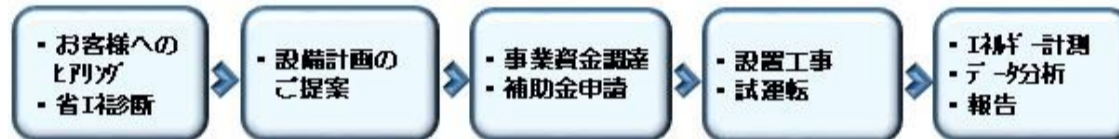
【補助金の活用】

経済産業省や環境省などから公示される補助金を活用すれば、投資額の1/2または1/3の負担を軽減できる場合があります。
勿論、手続きについてお手伝いいたします。

【補助金を活用した場合のスキーム】

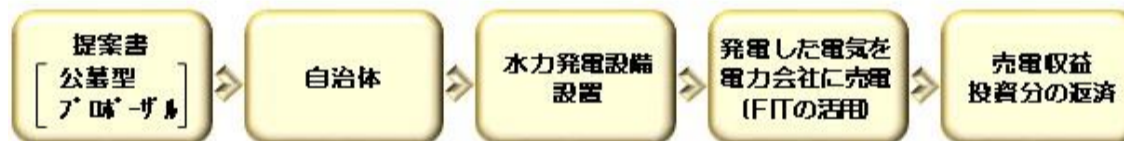


【手続きの流れ】



【小水力発電事業(固定価格買取制度(FIT)を活用したESCO)】

自治体が管理しているダム等の有効活用提案及び計画立案等についてお手伝いいたします。



【バイオマスの利活用】

バイオマス利活用に関するアドバイス及び事業計画等の作成をバイオマス利活用アドバイザー(農水省認定)が
お手伝いいたします。

カーボンオフセットの取り組み

プロジェクト名	実施機関	オフセットの対象	CO2排出量 削減値	総エネルギー投入 量削減値
			(kg-CO2)	(Mj)
北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業	森林バイオマス 吸収量活用協議会	営業車から排出されるCO2	51,000	767,217
サンタの森づくりプロジェクト	広尾町	本社で使用する電力 から排出されるCO2	25,000	131,796

カーボンオフセット対象期間は2018年1月1日～2018年12月31日となっています。



【森林づくりパートナーズ基本協定】

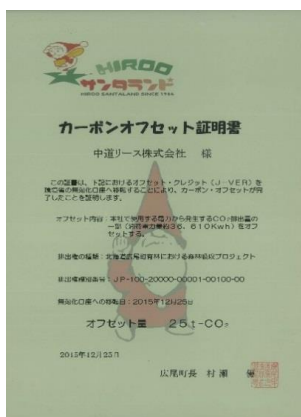
当社は、2011年5月11日に「森林バイオマス吸収量活用協議会」(下川町、足寄町、滝上町、美幌町の4町で構成)と「森林づくりパートナーズ基本協定」を調印いたしました。

この協定により、当社営業車の年間排出量の内、約50t-CO2を協議会と毎年オフセットしています。なお、当社が拠出した資金は4町が行う町有林間伐の資金に当てられ、森林の適切管理によるCO2吸収量の増大を目指す取り組みに役立てられています。



【サンタの森づくりパートナーズ基本協定】

2012年10月15日に、広尾町と「サンタの森づくりパートナーズ基本協定」を調印しました。この協定により、当社(札幌本社)が使用する電力から発生するCO2排出量の内、25t-CO2を毎年オフセットしています。なお、当社が拠出した資金は広尾町の森林整備に役立てられています。



明治北海道十勝オーバル(北海道帯広市)に看板が掲出されています

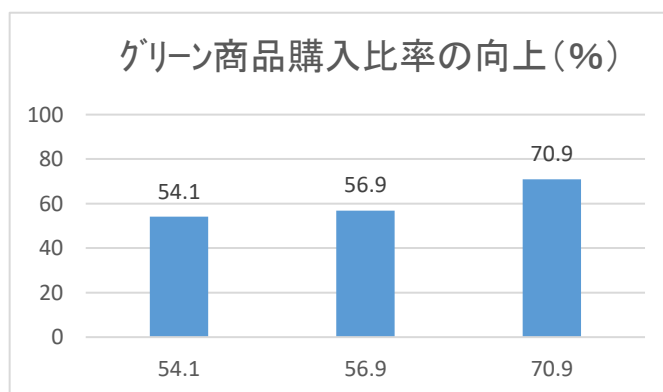
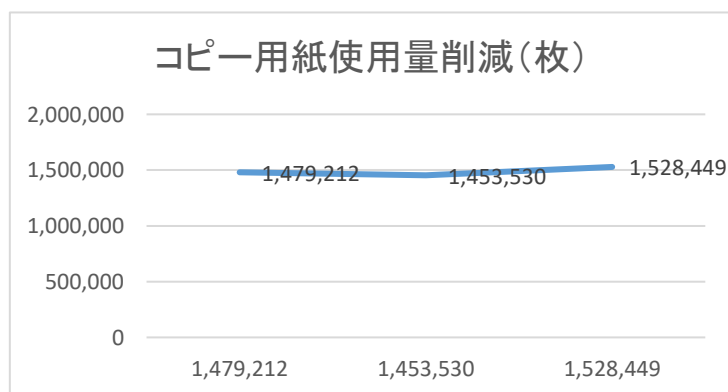
エコオフィス活動の推進

社会貢献活動や環境保全活動を推進し地域の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たしていきたいと考えています。

自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

	2018年度	自己評価	2019年度目標
コピー用紙使用量の削減(枚)	1,528,449	×	1,487,000
グリーン商品購入比率の向上(%)	70.9	○	54.3

測定対象は全社。2019年度の目標は過去3年間の実績平均値を基に設定しています。



【省エネ・省資源・環境汚染予防の推進状況】

内容	2018年度	自己評価	2019年度目標
電気使用量削減(kw)	200,774	○	199,000
電力のCO2排出量(kg-CO2)※1	102,796	×	102,000
紙の消費に伴うCO2排出量(kg-CO2)	7,826	×	7,600
総エネルギー投入量(Mj)※2	2,948,412	○	3,145,000
温室効果ガス排出量(kg-CO2)※3	258,568	○	269,000
一般廃棄物の発生量(t)※4	2.21	×	2.00
営業車両のCO2排出量(kg-CO2)	147,946	○	161,000
営業車の燃費向上(km/L)※5	18.2	○	17.7
環境低負荷型車両導入(台)※5	16	○	10

測定対象は全社(カーボンオフセット前)。2019年度の目標は過去3年間の実績平均値を基に設定しています。

※1 電力会社公表の平均係数を基に算出

※2 Mj換算した電気、営業車の合計

※3 原換算した電気、紙、営業車の合計

※4 本社集計のみ

※5 目標値は企業内計画による

【リサイクルシステム「星の助」を利用した制服の導入】



当社は、株式会社ボンマックスが手掛ける環境負荷を減らしたリサイクルシステム「星の助」を利用した制服を導入しております。使用後に焼却処分をしないため二酸化炭素の排出量を削減することができ、また、建設資材の原材料として再利用されるため制服の導入により環境負荷低減に努めております。

【エコキャップ運動】

ペットボトルキャップを積極的に分別回収することにより、焼却処分の際に発生するCO2の抑制に努めています。回収したペットボトルキャップを売却し、発展途上国の子供たちに感染症のワクチンを届けるエコキャップ運動に参加しています。



【労働環境の整備】

	2018年度	自己評価	2019年度目標
メンタルヘルスケアの実施率(%)	100	○	100
有休休暇取得率の向上(%)	57	○	53

生物多様性行動指針

《基本理念》

生物多様性は、人間や動植物を含むさまざまな生物が持続する為の源であり、人間社会に様々な恩恵をもたらしてきました。それは、次世代に引き継がなければならない財産です。

中道リースは、「経営の理念」「基本方針」「環境方針」に基づき、事業活動と生物多様性との関りを認識し、様々な事業活動を通じて生物多様性の保全と持続可能な利用を推進します。

《行動指針》

◆環境マネジメントシステム

生物多様性を環境マネジメントシステムにおける重要な要素と位置付け、すべての事業領域で生物多様性の保全と持続的な利用に努めます。

◆コンプライアンス

「企業倫理方針」に基づき、生物多様性に関する法令などを順守します。

◆教育

全役職員に対し、生物多様性に関する知識・法令などの教育を通して、理解の促進と意識の向上に努めます。

◆事業活動における取り組み

省資源・省エネルギー・再資源化・グリーン調達・環境汚染予防の推進など、「環境方針」に基づいた環境活動によって、生物多様性への環境負荷の低減に努めます。

◆社会貢献

生物多様性に関する社外の活動や社員のボランティア活動の支援、協力を努めます。

【植樹活動】

中道リースでは森づくりを通じて、地域の生物多様性の保全に取り組んでいます。

活動日：2018年5月12日（土）

活動場所：北海道遠軽町 北海道家庭学校

活動内容：北海道指定「北の里山づくり」に「森の学校」として登録されている社会福祉法人北海道家庭学校様の取り組みに賛同し、エゾヤマザクラの植樹活動に参加しました。地元企業や学校職員・生徒の皆さんとともに約250本の苗木を植栽しました。



活動日：2018年5月12日（土）

活動場所：北海道北広島市

活動内容：「きたひろしま大志さくら会」様主催の植樹会に参加しました。ここではソメイヨシノの苗木を植栽し、北広島市民の皆さんと一緒に汗を流しました。



活動日：2018年4月29日(日)
活動場所：北海道長万部町
活動内容：前年に引き続き「NPO法人長万部町緑と樹を愛する会」様が主催する植樹祭に参加し、長万部町民の皆さんとともにサクラの植栽やキノコの植菌を行いました。



活動日：2017年10月14日(土)
活動場所：北海道エネルギー「道エネの森」
活動内容：植樹場所を提供して下さった株式会社北海道エネルギー様とサクラの苗木を準備くださった財団法人日本花の会様の協力の下、サクラの苗木を社員とその家族が植樹しました。



環境美化活動

中道リースでは「身近な環境を守る」を合言葉に、周辺地域の清掃活動を行っています。



活動日：2018年10月17(水)
活動場所：北海道 札幌市 本社周辺
活動内容：本社ビル周辺の清掃活動

活動日：2018年5月8日(水)
活動場所：北海道 札幌市 本社周辺
活動内容：本社ビル周辺の清掃活動





活動日:2017年7月6日(木)
活動場所:北海道 札幌市 本社周辺
活動内容:本社ビル周辺の清掃活動

活動日:2016年10月12日(水)
活動場所:北海道 札幌市 本社周辺
活動内容:本社ビル周辺の清掃活動



【環境意識向上に向けた取り組み】

当社は全役職員の環境意識の向上を目的とした支援体制をとっており、eco検定の受験、環境家計簿の作成を推奨しています。
また、防災・安全運転意識の向上と環境面への影響について再認識するため、防災訓練や車両事故テストを実施しています。

活動日:2018年10月23日(火)
活動場所:北海道 札幌市 本社周辺
活動内容:避難訓練と消火活動訓練



【「救缶鳥」プロジェクトへの参画】

株式会社パン・アキモ様(栃木県那須塩原市)が実施する世界の飢餓対策支援活動に参画しています。
プロジェクトの詳細はホームページ(http://www.panakimoto.com/kyucancho_jr/index.html)をご参照ください。

【インターンシップ生の受け入れ】

中道リースでは年に2回、学生インターンシップを受け入れています。
学生の頃にはまだ馴染みが浅いリース業界を実際に当社の業務で触れてもらい、リース業界とは？を体験して頂きます。
リース業は、特定の製品を販売するのではなく、顧客ニーズを掘り起こし、付加価値を付け提案することが重要な鍵となります。
実際に疑似体験することで、きっとリースがより身近に感じられることと考えております。
※札幌・仙台・東京で毎年5名程度受け入れを行っています。
2018年度実績:6名



2018年度 環境会計

I)環境保全コスト

(単位:千円)

分類		主な取り組み内容	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト			0	1,165
内 訳	地球環境保全コスト	環境配慮型車輛の導入	0	△ 28
		省エネ機器導入	0	0
		カーボンオフセット排出権購入など	0	1,151
	資源循環コスト	マニフェスト伝票、MIXペーパー袋代金など	0	42
(2)上・下流コスト			0	764
			0	184
				580
(3)管理活動コスト			0	1,592
				873
				523
				196
(4)社会活動コスト			0	113
合 計			0	3,634

II)環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標(単位)	前期(基準)	当 期	環境保全効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(Mj)	3,239,324	2,948,412	290,912
	(オフセット後)	3,107,528	2,816,616	290,912
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO2排出量(Kg-CO2) *1	274,211	258,568	15,643
	(オフセット後)	255,796	239,824	15,972
	一般廃棄物排出量(t) *2	1.82	2.21	△ 0.4
	コピー用紙使用量(枚)	1,453,530	1,528,449	△ 74,919
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	産業廃棄物(リース満了物件)最終処分量(Kg)	87	418	△ 331

*1 電力会社公表の平均係数を基に算出

*2 測定対象:札幌本社

III)環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位:千円)

効果の内容		金 額
収 益	リース満了物件の売却利益	65,489
費用節減	環境配慮型車輛導入、燃費向上による燃料消費削減	△ 746
	コピー用紙使用量削減	233
	3R推進による廃棄物処理費の削減	△ 29
	電気使用量削減	△ 513
合 計		64,434